

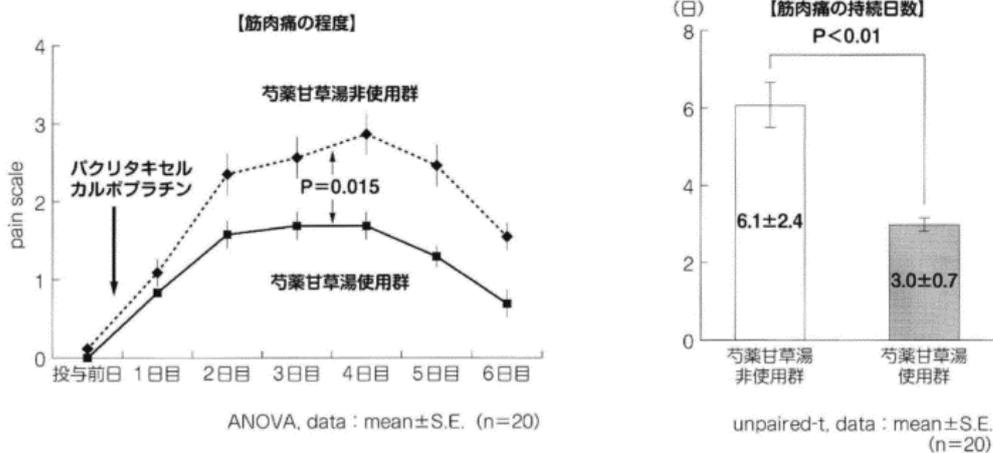
# 富山発芍薬甘草湯による医師主導治験と臨床インパクト

富山大学 学術研究部医学系 産婦人科学講座 教授 中島 彰俊

本文

パクリタキセル (PTX) は 1997 年から使用されている抗がん剤で、現在でも多癌種に使用される薬剤の一つです。一方で、投与により筋肉痛・関節痛 (副作用) を 3 - 4 割の患者さんに引き起こします。この副作用は、通常の鎮痛薬が効きにくいということが臨床で大きな問題です。そこで、富山大学産科婦人科学講座では、以前よりその副作用を軽減できる薬剤を探索し、漢方薬である芍薬甘草湯が最適な薬剤であると考えてきました。実際にこれまでの研究によって、PTX を投与された卵巣がん患者を対象に、NSAIDs に芍薬甘草湯を併用服用することで筋肉痛・関節痛が有意に軽減し、疼痛期間が半減することを報告しました (図 1)。ただ、漢方薬を用いた治験というものは当時行われておらず、これ以上の研究は行われませんでした。

図 1 卵巣癌患者におけるパクリタキセル誘導筋肉痛・関節痛に対する芍薬甘草湯の疼痛緩和効果



日高隆雄, 中島彰俊, 齋藤滋ほか. Paclitaxel投与による筋肉痛に対する芍薬甘草湯の効果. 産婦人科漢方研究のあゆみ2000:17 : 79 - 83

その後、2020 年から富山県が実施する「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアムの支援をいただき、20 年ぶりに芍薬甘草湯研究が医師主導治験として再始動いたしました。その背景として、当科で行った産婦人科医を対象に“PTX による筋肉痛・関節痛への芍薬甘草湯の予防投与のアンケート”において、同処方を行っている医師は 3 割程度という結果でした。低い投与率の原因を考えた場合に、医師に対する EBM (根拠に基づく医療) が大きく影響していると考えました。つまり、漢方薬の適応症は古典に記載されている“経験に基づく医療”が根拠であるため、EBM がない薬剤のため処方されないということです。その打開のため、漢方薬によるエビデンスを構築することが処方促進に繋がると考えました。そして、“くすりの富山”と“和漢医薬学総合研究所を持つ富山大学”がタッグを組み、医師主導治験による科学的根拠を創出することで、芍薬甘草湯に“PTX による”筋肉痛・関節痛という新しい適応を得ることを目的としました。この治験は、富山大学附属病院臨床研究管理センター (戸邊一之センター長、寺元剛特

命教授) 協力の下、複数科と共に行っております。この治験自体は芍薬甘草湯を用いた治験ですが、富山大学附属病院における漢方薬を用いた“始まりの治験”と捉えており、この治験結果を通して医薬品の中での漢方薬の存在を高め、国内での使用を増やし、更には海外でも信頼される薬剤となることを最終目標に研究を実施中です。本発表では、その解説を行う予定です。

## 略歴

氏名：中島 彰俊（なかしま あきとし）

現職：富山大学学術研究部医学系 産科婦人科学 教授

富山大学附属病院 総合がんセンター 小児・AYA 世代・妊孕性センター センター長

富山大学附属病院 総合がんセンター 婦人科腫瘍センター センター長

## 学歴・職歴

1993年 富山医科薬科大学 医学部医学科入学

1999年 富山医科薬科大学 医学部医学科卒業

1999年 富山医科薬科大学医学部 産科婦人科学 入局

2002年 富山医科薬科大学 大学院医学系研究科博士課程入学

（国内留学：東北大学医学部免疫学教室 菅村和夫教授）

2006年 富山医科薬科大学 大学院医学系研究科博士課程 修了

2006年 富山大学医学部 附属病院 診療助手

2007年 富山大学医学部 助教

2013年 米国留学

（Brown University, Postdoctoral fellow, Professor Surendra Sharma）

2015年 富山大学医学部 助教に復職

2016年 富山大学附属病院 講師 臨床准教授(同年4月)

2020年 富山大学 医学部 産科婦人科学講座 教授

現在に至る

## 所属学会・資格

日本産科婦人科学会 （専門医・指導医）

日本婦人科腫瘍学会 （専門医・指導医・代議員）

日本産科婦人科医会 （2018～2022年 研修委員会委員）

産婦人科漢方研究会 （世話人）

日本生殖免疫学会 （理事）

日本妊娠高血圧学会

日本産科婦人科内視鏡学会 （婦人科内視鏡技術認定医）

日本胎盤学会

世界胎盤学会

富山県産科婦人科学会 （会長）

The American Society for Reproductive Immunology （Vice President）

International society for immunology of reproduction （Councilor）

Journal of Obstetrics and Gynaecology Research, Hypertension Research in Pregnancy

（Associate Editor）

American Journal of Reproductive Immunology, Journal of reproductive immunology

（Editorial board member）

## 受賞歴

2007年 第15回日本胎盤学会学術集会 相馬賞（学会賞）

2009年 第17回日本胎盤学会学術集会 相馬賞（学会賞）

2010年 第15回日本病態プロテアーゼ学会 学術奨励賞

2011年 第32回日本妊娠高血圧学会 学術奨励賞

2013年 第65回日本産科婦人科学会学術講演会 優秀演題賞

2014年 アメリカ生殖免疫学会、New York, USA, Poster presentation award

2015年 アメリカ生殖免疫学会、Kingston, Canada、Travel Award、

2016年 第68回日本産科婦人科学会 International session Best Award

2017年 第32回日本生殖免疫学会、学会賞

2019年 第72回日本産科婦人科学会 学術奨励賞（周産期医学部門）